



# LETTER FROM COPENHAGEN コペンハーゲン通信 PART V

## 10

(最終回)



### デンマーク王国 DATA

人口約570万人(≒兵庫県)、面積4.3万平方キロ(≒九州)、欧州最古の王室を有する立憲君主国。「世界一幸福度の高い国」「環境・デザイン・福祉先進国」として知られ、アンデルセン童話、食器・家具・知育玩具などのブランドは日本でも有名。

2007年1月より本会事務局職員が在デンマーク日本大使館に出向し、デンマークからの現地報告を不定期にお届けしています。山口によるレポート(PARTV)は今号で最終回となります。ご愛読ありがとうございました。次回PARTVIもお楽しみに。



山口 晃平

在デンマーク日本大使館二等書記官  
(経済同友会事務局より出向中)

## 幸福度調査とデンマーク

国連の「持続可能な開発ソリューション・ネットワーク(SDSN)」が発表した世界の幸福度に関する調査(2016年度)によれば、前年度3位のデンマークが見事1位を奪還し、通算3回目となる「世界一幸福な国」という栄えある称号を手に入れました。ちなみに日本は、前年度の46位からやや順位を落とし53位となっています。

同調査では、①1人当たりGDP、②社会的支援、③健康寿命、④人生の選択自由度、⑤寛容さ、⑥汚職の少なさの6指標を基に、各国の幸福度を公表しています。これらの指標は、いずれもデンマークという国がとても大切にしているものです(ただし④に関してはさほど高くなく、日本が優位に立っています)。3位アイスランド、4位ノルウェー、5位フィンランドと、北欧の福祉国家が上位に名を連ねていることから、本調査と福祉国家政策は相性が良いのかもしれません。

デンマークでは高い税負担(国民負担率68.4%。日本は41.6%[2012年度])を強いられる半面、教育や医療・介護等の福祉サービスが原則無料で、社会的支援が非常に充実しています。また、デンマークは福祉国家体制による「大きな政府」を支える税収確保の観点から、伝統的に競争力のある産業に経営資源を集中し、A.P.モラー・マースク社(海運)やノボ・ノルディスク社(医薬品)、カールスバーグ社(ビール)、ヴェスタス社(風力発電)等、名だたる企業を擁しています。そうした世界的な企業を中心とした高い国際競争力を背景に、高い1人当たりGDPを実現しています(52,139米ドル。日本は32,479米ドル[2015年])。さらに学校教育制度についてコスト(高等教育を含め無料。高等教育を受ける学生には返済義務のない奨学金を支給)や、学業の選択自由度を日本と比較してみると、親の所得水準等による制約も少なく、自由度は高いように思います。

幸福に関する調査は同調査以外にも存在し、その尺度はさまざまです。また、そもそも人の幸福度を他人の勝手な尺度で測れるのかという意見も耳にします。ただ、少なくとも私には、デンマーク人の多くが「世界一幸福な国」の住民であると実感し、それを誇りにしていると感じられます。私がコペンハーゲンに来て間もないころ、市内のバーで隣になったデンマーク人が、「世界一幸せな国へようこそ！」と陽気にビールをごちそうしてくれたことがありました。「北欧のラテン」と形容される陽気なデンマーク人ですが、ここで2年を過ごした私が描くイメージも、そのときに声をかけてくれた彼そのものです。

もちろん、世界から高度な福祉国家と認識されているデンマークでもさまざまな議論があり、すべてがうまく回っているわけではありません。また、日本ではデンマークをはじめとする北欧諸国について、ことさらにその光の部分のみを取り上げた論調が多い気がしますが、非常に良い取り組みでも、そのまま日本に導入できるかということ、社会・文化的背景や国家規模の違いなどから、なかなか難しい部分があるように感じます。それでも、デンマークは日本が抱える問題に対する示唆に富んだ国であることは間違いなく、今後も注目していきたいと思っています。

\* \* \* \*

月日のたつのは本当に早いもので、私の在デンマーク日本国大使館での任期も終了が近づいており、間もなく日本に帰国します。職務を通じて、またプライベートでも多くの出会いに恵まれ、非常に得難い経験をさせていただいた2年間でした。公私にわたりお世話になった皆さま、そして、私の拙い文章にお付き合いいただいた読者の皆さまに、この場をお借りして厚く御礼を申し上げます。

Tusind tak for alt!